

## 「中ぶらりん議会」をもたらした 2010 年オーストラリア連邦選挙

6 月 24 日、にオーストラリア初の女性首相となったジュリア・ギラード氏は、就任後まもなく連邦議会下院を解散し、総選挙に打って出ました。争点は主に、首相（党首）のリーダーシップ、経済対策、難民問題、地球温暖化対策の排出権取引の導入への対応でした。総選挙を急いだ理由は、前述の排出権取引導入をめぐる政府の対応や、2010 年 7 月に導入しようとした資源超過利益税（Resources Super Profit Tax）に対し、有権者が反発したことによって政権支持率が低迷していたのを、首相の交代で打破し、その勢いで政権維持を図ったことにあるようです。

投票は 8 月 21 日に行われたのですが、与党である労働党、野党連合ともに過半数（定数 150 議席中 75 議席）を取ることはできず、「ハング・パラメント」（宙ぶらりん議会）という状態になってしまいました。これは、1940 年以來 70 年ぶりという極めて稀なケースだそうです。

その後双方とも緑の党や無所属議員に対し、支持を得るための多数派工作を展開しましたが、勝敗の行方は、最後まで態度を保留していた 3 名の無所属議員が握ることになりました。

この 3 名の議員は、地方部から選出された議員であったため、与党側、野党側とも地方への優遇策を材料に支持を呼びかけました。また、この 3 名の議員もこれがチャンスとばかり、自身の主張を双方に展開しました。両陣営との交渉の様子やその内容は、連日テレビや新聞で報道され、彼らの動向にオーストラリア全体が注目を集め、彼らは一躍時の人となりました。

結果、9 月 7 日に 2 名の無所属議員が与党側支持を表明したため、与党側 76 議席となり、過半数の議席を確保したため、現政権の継続が確定しました。党ごとの獲得議席数は以下のとおりです。

（解散前勢力分布）		（総選挙後勢力分布）	
労働党	83	労働党	72
野党連合	64	野党連合	73
緑の党	0	緑の党	1（労働党支持）
無所属	3	無所属	4（3 名が労働党支持、1 名が野党連合支持）

このように、ギラード氏は首相就任後 2 ヶ月ほどで退陣という危機を脱し、辛くも政権を維持したわけですが、与党側と野党側で、議席差が 2 しかない状態であり、議員が病気で議会を欠席したり、辞職または死亡した場合には簡単に情勢が変化するという、非常に不安定な政権であることは否めません。しかも、労働党支持を表明した議員も、個別の政策についてはその都度行動しており、対立が予想される政策によっては、同じく労働党が過半数を占めていない上院の状況と相まって、非常に厳しい議会運営を迫られることとなります。与党側は無所属議員に対する多数派工作の中、支持の見返りとして、出身選挙区を含む人口の希薄な地方部を対象とする、99 億ドルの地域振興策に同意しましたが、この政策については、都市部を犠牲にするものだという批判もあり、ギラード政権は、先に挙げた争点に加え、地域振興についても難しい舵取りを担うこととなります。ギラード政権がこれらの課題についてどのように行動するのか、今後の動向が注目されます。

